

たけなすの ひまわり

著: 荻田 澄子
絵: 中川 学

ここは ほとけさまの いく、
『なむなむ びょういん』。



せんせいは やくしによらいさま。
「おなかが いたいよう」
おじぞうさまが やってきた。

「うわあ、パンパンですね」
やくしせんせいが おなかを なでる。
「おそなえの おだんごを 30こ たべたの」
「まあ、そんなに たべたのですか」
かんだしの にっこうさまが いった。
「おなかの くすりを だしますね」
やくしせんせい、にっこり。



つぎに やってきたのは、めらめら おこる おふどうさま。
うでが あかく はれている。

「やけどですね」

もうひとりの かんごし、がっこうさまが
くすりを めって ほうたいを まく。

「やけどするほど おこっては いけませんよ」

「つい おこりすぎたのじゃ」



そこへ、こまいぬたちが かけこんできた。
「たいへんだわん！
だいぶつさまが たおれたわん！
すぐ きて！」
「いつも おげんきな だいぶつさまが？
すぐ いきましょう」
やくしせんせいは おてらに とんだ。



おおきな おおきな だいぶつさま。
いつも げんきに すわっていらっしゃるのに
きょうは よこに なって
せきを ごほごほ、はなみず ぐずぐず。

「だいぶつさま、だいじょうぶですか？」
やくしせんせい が きいた。
「あたまが ずきずきするんですぅ」
「うわあ、ひどい はなごえだ」

